

平和を祈るー銅の千羽鶴

一般市民参加ー京都・私のしごと館

燃えない千羽鶴をつくろう！

去年も、そして今年も起こってしまった心痛む事件。昨年の春、広島市平和記念公園にある原爆の子の像に飾られた折り鶴。平和を祈り、心を込めて折った五万羽の千羽鶴が、心ない行為で一瞬のうちに燃やされてしまったのである。

しかし後日、このやるせない気持ちを払拭する心あたたまる記事に救われた人も多いのではないだろうか。

「不審火に心痛め『燃えぬ千羽鶴』贈呈 京都府板金工業組合、原爆の子の像に」

京都府板金工業組合の役員や青年部員七人が、平和の日を前にした昨年の八月二日、広島を訪れ、像の前に銅

製の千羽鶴を捧げたのである。

手向けられた千羽の鶴は、青年部の約二〇人が手分けをし、十二cm四方、厚さ〇・一〇・二五mmの銅板で折った。ステンレスワイヤで五十羽ずつ、二十連につないだ。手慣れたメンバーは、板金加工専門の工具を使い一羽を十五分ほどで折りあげた。最初は一時間近くかかったという。約二か月かけて完成させた。

同組合齋木嘉三郎理事長は、当手を振り返って言われる。

千羽鶴が燃やされた事件を知った当組合のある理事が、「銅製の燃えない千羽鶴を広島に届けよう」と提案したのがきっかけでした。役員と青年部のメンバーがこれに賛同し、「日本は平和でも、世界を見れば紛争が絶えな



京都府板金工業組合・齋木理事長

い。平和であり続けることが大切で、その思いを自分たちの技術を生かして表現したい」とがんばってくれました。今年も、長崎に贈りました。

人気ふつとつうの折り鶴イベント

昨年夏、同組合では、自分達の仕事、技術をできるだけ世の中にアピールし、長くその技術を残していく、ひとつの手だてになればと、祇園祭りの宵山の日に銅製の折り鶴を展覧した。出店の店頭で青年部のメンバーが鶴を折り、売ることになった。この企画は大当たりし、大人気を博した。

この光景を目の当たりにしていた人がある。この秋、若者たちに仕事に対する夢を持ってもらおうと、さまざまな仕事を「見て」、「触れて」、「経験す

る」、雇用・能力開発機構がオープンする「私のしごと館」(京都府・関西文化学術研究都市)。副館長・吉免光顕氏である。この仕事、この技術をぜひ若者たちに体験させたいと同組合に持ちかけた。組合内ではかかったところ、大賛成。「板金」というと、一般の人は自動車板金を思い浮かべてしまい、建築板金を考える人は少ない。建築板金をもつとPRしよう、組合員たちは立ち上がった。

この五月に「銅板で鶴を折ろう！」という「私のしごと館」のイベントを一般市民にPRしたところ、定員三十人の予定になんと二八〇〇人も応募が寄せられたのである。

そのイベントの初日、会場には、親子づれ、子供を中心に約三十人が緊張の面持ちで集まっていた。講師となる同組合員・青年部のスタッフ五名ほどが工具の持ち方、使い方、銅板の折り方を順を追って、ていねいに説明していく。こわばっていた参加者の表情もしいにほぐれ、講師に質問が次々と浴びせられる。悪戦苦闘の末、一時間半ほどできれいな鶴ができあがった。

「面白かった！」というのが参加者の大半の感想で、表情は輝いていた。

あまりに応募者が多かったので、二回の予定を年末まで月二回のペースで開催するつもりです。建築板金を一人でも多くの人に知ってもらおうという目的の第一歩は踏み出せたと思います。これからさらにこの運動を広く展開していきたいですね。

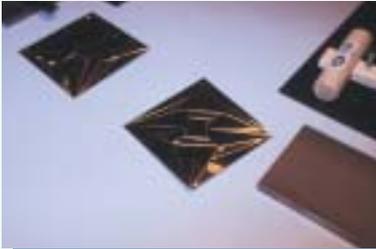
平和を祈る銅の折り鶴が、どうやら若者に夢を与えはじめたようである。



きらめく美しさの銅製の折り鶴



折り鶴に使用する板金工具



ケガきされた銅板



熱心に折り続ける参加者